

◆教材名 『違いを乗り越えて』

◆主題 多文化理解

◆ねらい 国際的視野に立って、文化や生活習慣の違いを認め合い、人間として尊重しあう態度を育てる。

●導入 韓国の食事マナークイズ

(別紙シナリオおよびパワーポイントデータを参照のこと)

☞ T 2 の先生で主導していただけたら、変化があつていいかも。

●範読 (約 7 分)

●場面発問

① Aさんがお刺身を口にしたのはどんな気持ちからだったのだろう？

- ☞ ・せっかく勧めてくれたから。
・もてなしてくれているのに、断っては悪いと思ったから。
・日本の食習慣にも慣れなければならないと思ったから。

② そばの食べ方でけんかになってしまった。どうすればよかったのだろう。

- ☞ 【Aさんがやればよかったこと】
・Aさんが日本の食習慣に合わせれば良かった。
・自分だけ音を立てずに味わえば良かった。
【「私」が実行すればよかったこと】
・Aさんに配慮して、音を立てずに食べれば良かった。
・日本の食習慣を押し付けず、どんな食べ方でもいいよと言ってあげれば良かった。

③ 言葉の通じない母がAさんと仲良くなれたのはなぜだろう。

- ☞ ・熱心にAさんの話を聞き、反応してあげたから。
・Aさんの話に関心があることを、態度で示したから。
・居心地の良いホームステイとなるように、あれこれと気配りしていたから。

●主題発問

私たちが外国人と接するとき、どんなことを大切にしていけばいいだろう。

- ☞ ・違いを認め合うこと。違いがあることを分かりあうこと。
・互いの立場を尊重しあうこと。自分の立場を無理強いしないこと。
・個人として尊重しあうこと。違いがあっても、喜びや悲しみといった基本的なことは同じであることを理解すること。

●まとめ 感想を書く。T 1 のまとめの話を聞く。

☞ 外国人との交流は、いまや「旅行者に道を聞かれたときに親切にする」レベルをはるかに超えている。就業のため居住する外国人は地方の中小都市でも珍しくなく、

「隣人との付き合い」として考えなければならない時代になっていることに留意。

◆ふりかえり

- ・日韓交流の写真は、生徒は興味深く見ていた。自分も交流事業に積極的に関わりたいと感想に書いた生徒も少なくなかった。身近な課題として提示するには格好の材料だったと思う。
- ・本町でも、外国人の居住者が増えている。外国籍の親を持つ生徒もいるし、執筆者は毎朝、自転車で職場に向かう（おそらくは）ベトナム系の労働者の車列とゆきあう。そういう経験を生徒から引き出す発問もあつてよかったのかもしれない。